

全米総合目録の成立とその背景

— *National Union Catalog, Pre-1956 Imprints* を中心に —

土井 稔 子
枝 松 栄

はじめに

第I章 *National Union Catalog*

— その歴史と利用について —

- 1 *NUC Pre-1956* の成立
- 2 LC蔵書目録との関係
- 3 *NUC Pre-1956* の利用
- 4 *NUC 1956-67* およびそれ以降の
累積版
- 5 総合目録サービス

第II章 *National Union Catalog*

— 資料収集の背景 —

- 1 米国内出版物の収集
- 2 外国出版物の収集

むすびにかえて

資料 クローニン「*National Union Catalog, Pre-1956 Imprints* の歴史」
(訳)

はじめに

‘大きなことはいいことだ’のコーマーションがそのままあてはまるような *National Union Catalog, Pre-1956 Imprints* が、アメリカ図書館協会、アメリカ議会図書館、そして Mansell 社の協力のもとに世界の注目と期待を集めて、ついに出版された。

10年間で約610冊を刊行する計画で1968年から開始されたこの目録は、1973年末ですでに300冊が刊行された。*National Union Catalog 1956-67* (全125巻刊行済) および1968-72 (全128巻’74年刊行開始) の分とをあわせると全体で900冊近くにも達するものとみられる。これらの目録は、図書館協力の最も有効かつ重要なツールとなることは疑いもないだろう。

グーテンベルグが1450年代に活版印刷術

を発明し、四十二行聖書の出版を始めたその時代から今日に至るまでの、米国およびカナダにある知的財産のほとんどを一系列の目録にまとめ得たことは、2年後に迎えるアメリカ独立200年を祝賀するにもふさわしい一大事業といえるものであろう。

日常のレファレンスにたずさわるわれわれが、この‘ガルガンチュワ’に接していると何となく親しみをおぼえ、‘ガルガンチュワ’の生いたちを探ってみたくなったのが本稿の発端である。

NUC Pre-1956 の刊行を引き受けた Mansell 社がその趣意書ともいべき *Prospectus for the NUC Pre-1956* を刊行した。この中に *NUC* の編集刊行に情熱を注ぎこんだ元LC整理部長クローニン (J.W.Cronin) 氏の ‘History of the *NUC Pre-1956 Imprints*’ が掲載されており、まずこの翻訳から始まった。次第にこの目

録のスケールの大きさに圧倒されながら思ったことは、日本でも当館および数十館が購入していることも考えあわせて、‘室の持腐れ’とならないように、この目録を使いこなすために、ぜひ内容と実際の使い方を紹介したいということだった。そのために第I章はこのことを念頭において、日常のレファレンス・サービスにあたる図書館員の利用のために、きわめて実際的な内容とした。

ところでこの目録を研究していく過程で、900冊近くにも及ぶ全体の総合目録に収録された資料はどのようにして収集されたのかという点が興味とも疑問ともなつてわれわれの心に拡がっていった。日頃の勉強不足がここで痛みとなったが、これまでの膨大な資料と研究を頼りに、LCを中心としてその収集の歴史をひもといてみた。このところを第II章で扱った。

最後の部分には、第I章を補う意味でクロニン氏の論文を、Mansell社より翻訳許可を得て掲載した。

第I章 National Union Catalog —その歴史と利用について—

1 NUC Pre-1956 の成立

National Union Catalog, Pre-1956 Imprints (以下 *NUC Pre-1956* と略) が1968年に刊行され始めた時、*Library Quarterly* (v.40, n. 2, 1970. 4)の書評欄でシカゴ大学図書館の R. W. Soderland 氏は、冒頭つぎのように述べている。「このガルガンチュワの如き書誌はどこまで飛躍するであろうか。まさにこの目録はガンチュワである。約10年後610冊が完結すれば、米国およびカナダの700館以上の図書館が

所蔵する約1千万タイトル(版も含む)を収録し、各資料の所在を明らかにする……」。

本目録は、このように議会図書館(以下LCと略)を中核とする北米の主要な図書館所蔵資料の総合目録であり、全巻そろえば、資料の所在要求の80%以上は応じることが可能になると言われている。そしてこれが図書館協力の最大のツールとなり、図書館網を拡大し、情報サービスを前進させる上で新たなツールを生み出すことは否定すべくもない。利用者にとって——世界各国の図書館員、学者、調査員にとっても、これほど有効な資料が他に考えられるだろうか。

その規模や収録内容などから言えばかなり異なるかも知れないが、わが国で一昨年完結した『国書総目録』(全8巻、岩波書店)が、われわれ図書館員のみならず、各方面に及ぼした功績の大きさにもたとえられよう。

NUC Pre-1956 は年間約60冊のペースで刊行が続けられ、1973年末現在で304冊(v.53-56は未完)に達しているが、早くも多方面でその威力を発揮しつつある。現に、当館の窓口で問合わせを受けているわれわれの実感としても、いわゆる洋書を調べる場合、これまでは主に *British Museum* (以下BMと略) やLCの蔵書目録に頼ってきたが、本目録のおかげでさらにもう一つの強力なレファレンス・ツールを得ることになる。

総合目録の始まり

NUC Pre-1956 の成立は、1951-68年LCの整理部長を勤め、中心的役割を果たしたクロニン氏の論文(“History of the *National Union Catalog, Pre-1956 Imprints*”——*Prospectus for the NUC*

Pre-1956, 1967, Mansell Information/ Pub. 所収) に詳しく、本稿の最後に訳出したので参照して頂きたい。

アメリカにおける総合目録は、1901年LCが印刷カードを館外頒布した時から始まる。LCは、自館の印刷カードを、ボストン公共図書館、ハーバード大学、ジョン・クレーラー、ニューヨーク公共図書館などを含む主要な大図書館に寄託セットとして置き、交換にそれらの図書館のカードを収集した。少し遅れてニューベリー図書館、イリノイ、シカゴ両大学図書館なども加わり、1926年までに総合目録カードは約200万枚に達した。

その後、より包括的な総合目録を求める要求が高まり、アメリカ図書館協会(以下ALAと略)を通じてジョン・ロックフェラー・ジュニアから1927-32年にかけて総計25万ドルの寄付金を得て、さらに積極的な拡大にのりだした。これは「プロジェクトB」として運営され、この5年間で634万以上ものカードが収集された。

最初の頃は、この総合目録の維持やサービスにあたる専任の職員はおらず、主としてLCのカタローガーが利用したにとどまっていたが、「プロジェクトB」によって総合目録カードは大巾に増加し、1932年総合目録部の設立となった。

続く1932-43年にかけては、前の時期に比べて予算が減少したが、合計335万以上のカードが増加した。

1943年以降は、クリーブランドとフィラデルフィアの地域総合目録を加え、さらに他の連邦図書館、エール大学、ノース・カロライナの総合目録、カリフォルニア大学なども含められ、次第にその内容を豊富にし、今や、1,600万枚以上のカードに達し、‘アメリカにおける学術図書館の宝庫’とな

った。

LC蔵書目録の刊行と総合目録への発展

一方1901年以来、LCのカード目録は国内の主要図書館(100以上に達する)に寄託セットとして送付され続けてきたが、それらの目録はその場所ではしか利用できず、もっと広く提供する必要があった。また、各館側でも増加する一方のLCのカードを維持管理するにはかなりの費用を要するようになった。

こうした事情から、1941年、学術図書館協会(Association of Research Libraries: 以下ARLと略)はLCの印刷カード目録を冊子体で刊行することを提唱し、その援助のもとに1946年、*A Catalog of Books Represented by Library of Congress Printed Cards Issued to July 31, 1942* (167 vols.) が完成した。収録されたカードは約190万枚だった。*A Supplement: Cards Issued August 1, 1942-December 31, 1947* が続いて1948年刊行された。そして1947年1月からは、LCが収集した資料の目録として、*Cumulative Catalog of Library of Congress Printed Cards* が刊行され始めた。ここまでが第一の大きなステップであった。

つぎの飛躍は1956年1月に訪れた。この時点から、1956年以降刊行のものについてLCの蔵書以外に他の北米図書館が収集・報告してきた資料のタイトルと所在を含めることになり、題名も *The National Union Catalog: A Cumulative Author List* (以下NUCと略)と変わった。収集、目録、相互貸借、レファレンス活動など多くの点でこのNUCが果たす役割は大きく、各館の反響は非常に高かった。

こうして1956年以降刊行の資料について

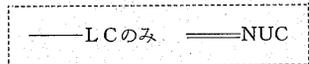
は軌道にのる運びとなり、残るはLCに蓄積された1955年までのカード目録の問題となった。ALAの全国総目録小委員会、これを刊行する方法を追求した。その第一歩として1952-55年の部分が実験的に刊行された(1961)が、膨大なカードを蔵する初期にまでさかのぼらせるには、多くの編集上、技術上、経済上の困難があった。

幸いなことに、BMの蔵書目録刊行の実

績をもつイギリスのMansell社がこれを引き受けることに決った。空白や余分な部分を除く独自の写真複写技術によって、全体のスペースの約1/4の量が節約ができることになり、また同社は、LCで行なわれる編集作業の資金確保にも応じ、月間5冊刊行という態勢がとられた。

1968年アメリカ図書館界の念願が突っついでいよいよここに1955年までの部分が刊行され始めた。クロニン氏の言葉を引用す

LCの蔵書目録(冊子体)とNUCの関係



	1940	1950	1960	1970
	1898-1942 (167v) 1946	1942-47 (42v) 1948	1948-52 (24v) 1953	1952-55 (30v) 1961
			1953-57 (28v) 1958	1958-62 (1956) (54v) 1962
				1963-67 (72v) 1969
				以後毎年累積版 月刊9回 季刊3回
		Pre-1956 (610vの予定)	1956-67 (125v)	1968-72 (128v) 1973~
件名		1968~	1970-72	
		1950-54 (20v)	1955-59 (22v)	1960-64 (25v)
			1965-69 (42v)	以降年間累積版・季刊3回
映画・フィルム ストリップ		1948-52 (v. 24) に収録	1953-57 (v. 28) に収録	1958-62 (v. 53, 54) に収録
			1963-67 (2v)	以降年間累積版・季刊3回
音盤・楽譜			1953-57 (v. 27) に収録	1958-62 (v. 51, 52) に収録
				1963-67 (3v)
				以降年間累積版・半年1回
写本				1959-61 1962 1963-64
				以降年間累積版
マイクロフィルム				1968 年間累積版

れば、「まぎれもなくLCの167年の歴史上最も大規模な書誌計画であり、そして印刷史上最も量の多い冊子目録であることも確かである」。

2 LCの蔵書目録(冊子体)との関係

すでに明かなように、*NUC Pre-1956*には、LCの蔵書(印刷カード化されたもの⁽¹⁾)と、数百の北米図書館から報告された資料が収録されている。これらの図書館の中、シカゴ、ハーバード、ユールの各大学図書館、ジョン・クレラー図書館、ニューヨーク公共図書館の蔵書はほとんど網羅的に報告されているが、その他の場合は多く選択的である(初期の頃は特にそうである)。

なお、LCの蔵書に関しては前述のごとく著者名を中心に蔵書目録が数回にわたって刊行されたが、1956年以降は*NUC*に引きつがれている。左図に、LCの蔵書目録と*NUC*との関係を示したが、*NUC Pre-1956*はこれまでのLC蔵書目録をすべて(特殊なものを除いて)、また*NUC 1952-55*および*NUC 1953-57*をも代替することになる⁽²⁾。

注

- (1) LCの事務用目録に印刷カードでなく、手書きのカードで入っている資料もあるが、これらは本目録には収録されていない。
- (2) *NUC*に入っていない音盤・映画・フィルムストリップなどの所蔵目録、および件名目録その他は別に刊行されている。

3 *NUC Pre-1956*の利用

*NUC Pre-1956*を実際に使うには、その収録内容、範囲、各記述内容などを十分知る必要がある。第1巻にある“Introduc-

tion to the *National Union Catalog, Pre-1956 Imprints*”の部分を参照して本目録の枠組みを追ってみたい。細部にわたってかなり詳しく説明されており、ここにその要約を紹介した。

収録について

期間 1955年までに印刷された(写本の場合は書かれた)資料を収録。そしてこの期間のもので各巻の刊行12ヵ月前までに報告された場合はすべて収録。なお収録期限後に報告されたものや、記入の変更、改訂および所在の追加などを含めた補遺版が後ほど刊行される予定である。

資料形態 図書、冊子、地図および地図帳、楽譜類。定期刊行物、その他逐刊類は、LCの目録にある場合か、他館から報告があった場合にのみ収録。*Union List of Serials, New Serial Titles, List of the Serial Publications of Foreign Government 1815-1931, International Congress and Conferences 1840-1937* および *American Newspapers 1821-1936* などの各総合目録があったので、逐刊資料の報告は系統的でなく、主要図書館の逐刊資料を網羅しているとは言えない。*Union List of Serials* にないものや、その後の追加所在は本目録でわかる場合もある。写本は *The National Union Catalog of Manuscript Collections* があるが、個別に報告があった場合は収録。

音盤、映画、フィルムストリップ、盲人用図書(点字図書など)は、LC印刷カードや他館の報告の有無に関係なく除外。修士論文も一般的には含まれない。ただし、LC印刷カード、国立医学図書館のカードがあるもの、販売用マイクロフィルムになっているものは例外的に含む。またハーバ

ード大学の名譽学位用論文は特に収録。

言語 ラテン文字の言語、ギリシャ語あるいはゲール語で印刷または書かれたものを収録。シ ril 語、アラビア語、ヘブライ語、中国語、日本語、朝鮮語、各種インド語系統、その他非ラテン文字の資料は、翻字やローマ字化の関係上、LC印刷カードがある場合のみ含む。そしてこれらの言語の総合目録カードは別だてのファイルになっているので、普通LC以外の所在は示されていない。各部門の総合目録の刊行が望まれるが、シ ril 文字の部分はマイクロプリントですでに刊行されている (*Cyrillic Union Catalog of the Library of Congress*. N.Y., Readex Microprint Corporation 1963)。

記入について

基本記入が原則で、それに必要な参照と副出記入がある。統一性と一貫性をもたせるため、そして同一出版物の所在は一つの目録記述の下に、また同一著者の作品はすべて同じ記入のもとにまとめてあるので、各資料を所蔵している機関では記入形式が本目録とは異なる場合がありうる。利用者および資料の要求を受けた図書館側でもこの点に注意しなければならない。

基本記入、副出記入の形式はほとんどALA目録規則(1949)に準じている。1967年の新しい英米目録規則 (*Anglo-American Cataloging Rules*) による記入を採用しているのは、最初の報告が新形式であった場合に限り、それぞれ旧形式から参照を付す。

各館が新しい目録規則で報告したとしても、すでにそれまでに著者(または書名)記入があるものは、新しいタイトルも版も所在もすべてその旧形式のもとに加えられ

る。

すべての記入はALAの規則を基準にし、そして同一著者の作品は一つの記入にまとめるよう努力されているが、一人の著者が複数の変名をもつことがあるし、各館での目録のとり方が異っている場合もある。また同一規則に従っていても著者の名前のうつしまちがいもあるので、同じ作品または同じ著者の作品であるにもかかわらず別の記入になっていることもある。楽語は、その慣用名ではなく標題紙にあるタイトルのアルファベット順である。

同姓同名の著者は、一般的に生没年、職業で区別する。しかし各著者に1タイトルずつしかなく、しかも区別の方法がないときは、記入は各タイトルのアルファベット順。

基本記入 数百の図書館が百年以上をわたって目録化したものなので、同じ作品の基本記入でも非常に異なることがある。同じものに対して二つ以上の異なった記入があるときは、原則的にLCの形式をとる。LCの記入がない時は、ALAの目録規則(1949)に準ずると思われるものを採用。あくまでも報告館の記入形式を尊重したが、上述の目録規則にそわないことが、記入そのものからも、他の目録記述からも明らかな場合は、その基本記入を変更した。例えば、件名を標目とした追憶録、無著者名の書誌、芸術家の著作目録または展覧会目録で芸術家を標目としたもの、系図で家名を標目としたもの、記念論文集で被記念者を標目としたもの、地方出版物で地名または歴史的な事件を標目としたものなど。同一資料に対し、規則の解釈の相異から記入がわかれた場合は、編集者の選択を優先したが、他の記入からの参照を付す。

元来は非ラテン字の名前をもつ著者によ

るラテン字の資料について、著者記入はその著者名が原語形で確立していない限りその資料にあるとおりの綴りである。東洋のまたはシリアル文字で表わす著者のラテン字による学位論文の数は非常に多いが、それらも論文に表記されているとおりの綴りで収録。

著者（個人または共同）または書名記入の各グループで最初の記入は完全な形をとるが、その後は簡略化することがある（例えば、名前の方を略したり、生没年を省略）。

モノグラフ・シリーズなどの扱いは一定していない。シリーズ名でまとめた記入だけのもの、または分出記入によるものもある。利用者はまず各分冊の記入で検索し、それからシリーズ名の記入で探す方がよい。

抜刷、頁分出などのカードも報告されたものは収録しているが、一定ではない。

逐刊物には問題がいろいろある。多くの図書館ではALAの規則に従って最新の誌名をとるより、出版時の誌名で記入している。誌名変遷の関連がわかれば、最新名に記入を変え、旧誌名から“see”参照を付す。わからない場合は、報告のままである。その結果、同じ雑誌に2種以上の記入をまねくこともある。誌名変更後のものがLCで欠号の際は、他館から報告を受けた新誌名とLCカードの旧誌名とを関連づけるため“see also”を付す。

副出記入 副出記入があるのは、①共著、共編の場合、②基本記入は実際の著者のものになっているが、作者不明となっている書名、③基本記入がどちらにもとり得る場合に対してである。

LC印刷カードの副出記入は、これまで規則的に総合目録カードにくみこまれてきたので、本目録の編集にあたって個々のケ

ースを確めることはしなかった。他館のカードしかないものに対しては、なるべくそうした副出記入を与えるようにしてある。

参照 “see” と “see also” の二通りがある。“see” は、利用者が探している記入は本目録では使用されず、参照先をみよということを示す。“see also” は、探している記入の他にも関連した資料があることを示す。例えば、ある機関名が変わって、その名前を探す場合とか、記入が旧形式のままですそれを使うには制限がある場合（ドイツの地名 ‘Strassburg’ はある時期までしか用いられず、それ以後は ‘Strasbourg’）。

版次・刷について

同一タイトルの別の版、別の刷は、別記入である。同じタイトルでも、出版者、出版地、刊年が異なる場合は別刷とみなす。しかし、従来LCの印刷カードは各刷の区別がなかった。刊年と出版者が違以外、最初の目録カードの記述と同じ資料は、LCの *Rules for Descriptive Cataloging* (1949) 3: 1A の規則に従って第二（または第三…）複本とみなされた。カードには複本表示がないのでLCではカード以外の刷を所蔵していることもあるし、また他館のカードにLCの所在表示がなくても、LCがそれを所蔵している場合もある。同様なことは他館にも言えるかも知れない。

写真複製物およびファクシミリ版について

写真複製物（マイクロフィルム、マイクロカード、マイクロプリント、マイクロフィッシュ、フォトスタット、エレクトロスタティックプリントなど）は、原本とは別の報告になっているが、原本の出版年でファイル。逆に印刷されたファクシミリ版

は、別の版とみなし、原本ではなく、ファクシミリ of the 出版年でファイルされている。

写真複製物は、*National Register of Microfilm Masters* (LC刊) にもリストアップされているので、ある特定のものをマイクロフィルムで入手できるかどうかかわかる。

記述および件名について

総合目録のカードは、非常に詳しい完備なカードから、著者の姓と簡単な書名だけのカードまで千差万別である。本目録に収録したカードは最も詳しいものである。何枚かのカードからマスターカードに必要な書誌的事項を移しかえる時、役立ちそうなもの、価値あるものはすべて採録してある。貴重書に関しては、記述上の差異があれば収録し、シリーズや学位論文の注記も同様である。

LC以外のカードは件名や副出記入のトレーシングが無いのが多い。トレーシングがあるものはそのままのせたが、LCでも一般的にも使われていないものがある。LC印刷カードにある件名標目や副出記入も、カード作成当時のものと現在のものとは異っている。

“Bound with” の注記や限定版の数などあれば、そのまま収録。

分類について

LCカードにあるLC分類とデューイの十進分類はそのまま再録。他館のカードの分類と請求記号も同様である。他館が用いている分類は、LCの分類を地方で修正、採用したものが多く。

識別のための表示

各基本記入には独自の識別表示がある

(副出記入や参照にはない)。カードの左下において次のとおりである。

例: N A 0010916— (1)NUCを表わす
(2)基本記入の頭文字 (3)その頭文字内での一連番号。従って A の基本記入は、NA 0000001 から、B はNB0000001 から始まる。その数字がとんでいることもあるが、一連番号としては連続している。

なお、この識別表示が Standard Book Numbers (SBN) が導入される以前の資料に対し、その代替となることが望まれる。

LCカード番号は右下にあり、印刷カードの注文に利用される。本目録中の記入順序とは全く無関係で、上に述べた識別表示のように、ある記入を探すツールとしては利用できない。

所在について

識別表示のつぎにアルファベットの組み合わせ記号(各機関のシンボル)があり、これがアメリカ合衆国およびカナダでの所在機関を示す。アメリカの場合、まずその機関がある州、つぎに普通は市、三番目に所在機関名を表わすシンボルが続く。カナダの場合、最初の二文字は必ず Ca, 続いて、地方、機関名の順である。

DLC-P₄ の記号は、LC で Priority 4 扱いの資料⁽³⁾を意味する。これは、完全整理され、近い将来印刷カード化される見込みのない資料だが、利用はできる。

一般的に本目録にそのカードを採用した図書館名が、筆頭にくる。

ひんぱんに利用されるシンボルとその完全な機関名は、各巻の見返り頁にある。全シンボルの完全に近いリストは、本目録の別冊 *List of Symbols* およびLC刊の *Symbols Used in the NUC of LC* の最

新版でわかる。なお、*NUC Pre-1956* の第 200 巻にもそのリスト (第 10 版) が収録されている⁽⁴⁾。

多数巻のもの、雑誌、オープン記入のものなど、報告館が必ずしもその完全セットを所蔵しているとは限らない。希望の巻号を所蔵するかどうかは各館に問い合わせる。

ペンシルバニア総合目録の場合、時々特殊なロケーションがある。PPULC のシンボルがあって他の所在記号がないときは、直接たずねる。

シアトルの Pacific Bibliographic Center (WaSB) や、デンバーの Bibliographical Center for Research, Rocky Mountain Region, Inc. (CoDB) も、一応すべての報告を寄せているが、各タイトルを所蔵している館は別にリストされている。Cleveland Regional Union Catalog の報告は選択的である。

国際連合、国際連盟、合衆国連邦および州資料の報告は一定していない。従って国際連合と合衆国の資料は、一般的に寄託図書館で探す方がよい。国連の寄託図書館一覧は、*Consolidated List of Depository Libraries and Sales Agents and Offices of the United Nations and Specialized Agencies* (国連図書館刊)、合衆国の方は、*Monthly Catalog of U. S. Government Publications* の毎年 9 月号でわかる。州の資料は、普通 LC、シカゴの Center for Research Libraries および州立図書館、または刊行機関が所蔵する。国際連盟の多くの資料は、ニューヨーク市の W. ウィルソン記念図書館が所蔵している。

本目録に所在が示されていても、必ずしもその資料を図書館間貸出しで利用できるとは限らない。多くの図書館では、貸出

資料に制限を設けている場合がある (貴重書、破損し易いもの、参考資料、定期刊行物など)。写真複製による入手にも、各館で、また資料形態で異なる。資料の入手に關しての問い合わせは該当の各館に直接行なう。

注

(3) LC の整理区分で、いわゆる簡略整理されるもの。例えば、外国語の資料でスポーツやゲームに関するもの、高校程度以下の教科書などはこれにあたる。

(4) この巻は特に目立ち易いように、他の緑っぽい表紙とは別に茶色の表紙で区別してある。

4 *NUC 1956-67* およびそれ以降の累積版

これまでみてきたように、*NUC Pre-1956* の刊行によって 1955 年までに刊行された資料については、LC の数回にわたる蔵書目録を追う必要はなくなり、また LC のみならず全米・カナダの 700 以上におよぶ諸機関の所在をより簡単に知ることが可能になった。

1956 年以降に関しては、LC が収集した資料に各館から報告された資料を加えた *NUC* が刊行され (月刊 9 回、季刊 3 回、年刊、5 年刊、および追加所在のリスト *Register of Additional Locations*)、現在までに 1958-1962 および 1963-67 の 5 年間の累積版がある⁽⁵⁾。これをまとめて先の *NUC Pre-1956* に続け、より一元的な目録として刊行したのが、*NUC 1956-67* で、*Pre-1956* と同じく非常に有効なレファレンス・ツールである。すでに全 125 巻が完結し、この期間に発行された資料は、アメリカ国内のみならず世界各国の資

料を含めて非常に多くをこの目録で把握し、あわせてそれらの所在を確認できるようになった。

NUC 1956-67 は、ほとんど *Pre-1956* の形式と同じであるが、いくつかその特徴をひろってみよう。

この目録にある資料の識別表示はつぎのとおりである。例 RL A 025482—(1) 出版社の Rowman and Littlefield を表わす (2)基本記入の頭文字 (3)一連番号。

NUC 1963-67 には追加所在を示す *Register of Added Locations* が8冊もあった。Rowman and Littlefield 社ではこれを光学のおよびコンピュータ処理によってアルファベット順の記入にし、その結果、追加の所在をその記入がある巻に収録できた。各記入の所在の欄に★印の記号があれば、その記入に追加所在があることを示し、各巻末にその一覧が収録されている。所在機関のシンボルは1969年改訂されたものである。

なお、続いて次の累積版 1968-72 (128 vols.) が、1974年から J.W. Edwards 社により刊行され始めている。

これらの時期の目録には、次章でふれるごとく、第二次世界大戦後、ファーミントン計画、PL480、高等教育法などの3計画に基づいて有効かつ積極的に収集された資料の記録が現われてくる。特に高等教育法による NPAC (National Program for Acquisitions and Cataloging) 計画により、世界各国で出版された資料を国家的見地に立って、LCを中心に網羅的に収集することになり、ここに到って NUC は単なる一国家の総合目録というよりは全世界の目録 (Universal Catalog) になったと言えよう。

注

(5) 実際の内容は 1956-62。

5 総合目録サービスについて

LCに蓄積された総合目録のカード(含まれている図書館の数は現在1,100以上にも達する)およびこれまで刊行されている各冊子目録をツールとして、広汎な図書館サービス体制がしかれているが、これらのサービスを有効にそして円滑に行なうため、LCから利用者に対し小冊子のマニュアル *The National Union Catalog, Reference and Related Service* (1973, 33p) が刊行されている。

これは、(1)全米総合目録に関する全体的説明、(2)文書、テレックスなどによる問い合わせの際の指示、(3)基本的な検索資料一覧、(4) *NUC Pre-1956* の所蔵機関の代表リスト、(5)博士論文、修士論文、国立公文書館の所蔵資料、National Technical Information Service (NTIS) の資料、外国の調査資料の翻訳文献および政府刊行物の入手方法、(6)検索資料の頭文字語一覧、にわかれ非常に細かい指示が与えられている。

総合目録に関する業務は、これまでほとんど総合目録部で行なわれてきたが、1970年7月に廃止になり、現在は各部局に移っている。所在および書誌の事項に関するレファレンス・サービスは General Reference and Bibliography Division、中でも Union Catalog Reference Unit (UCRU) がその中心となっている。ここで電話、文書、テレックスなどによる依頼に応じているが、マニュアルによれば、問合わせる前に必ず(3)に挙げられているような既刊の目録類、その他の資料を検索するよう求めている。特に *NUC Pre-1956* を所蔵し

ていない機関は既刊分の範囲内であれば、まず州や地方の指定のセンターに問合わせることが必要とする⁽⁶⁾。

文書による依頼は、一定のフォーム・レター (LC 74-68) を用いるが、この裏面には 114 種に及ぶ基本的な検索資料の一覧があり、事前に調査した資料の範囲が一目でわかるようになっている。

こうした予備調査をしていない依頼は、そのまま回答をつけないで返送されることもある。

なお、UCRU では、LC の総合目録のツールで所在がわからなかった資料について、*Weekly List of Unlocated Research Books* を主要な 75 の図書館に送って、これらの機関でさらに検索するよう求めている。

注

(6) 1955 年までの資料で、*NUC Pre-1956* が刊行されていない部分は、LC の総合目録カードに頼らざるをえない。

第II章 National Union Catalog —資料収集の背景—

NUC Pre-1956 が刊行され、この膨大な目録の歴史を調べているうちに、この中に並んでいる一冊一冊の図書がどのように収集されてきたのか、といういわば目録背景ともいべきものをもひもとく結果になってしまった。

米国出版物については、著作権登録により LC の著作権局に納本される民間出版物と、納本義務を法律で規定した政府刊行物がその大部分を占めている。著作権法と目録の関係、政府刊行物の歴史とその組織、

そして総合目録との関係について若干ふれることにしたい。

LC を始めとして、米国 (含カナダ) の図書館、研究機関で所蔵する外国出版物の収集は、主に外国との出版物の交換協定によるものと、第 2 次世界大戦中より現在に至るまで大学、学術図書館および歴史を持つ大規模な公共図書館等の協力による積極的な学術書収集方法を中心に調べてみた。これら資料収集における図書館相互協力体制と LC の中央目録作業および相互貸借制度の確立が三つ巴となって行なわれていることに、われわれは深い羨望を禁じえないと同時に、日本の図書館界にもその時期の早くきたらんことを願ってやまない。

いま、短い誌面で米国における出版物収集についてその全貌はとてども紹介しえない。すでに各国の図書館関係誌にも論文がのり、また我々の先輩諸氏によっても紹介されている部分も多い。我々が参考にしたこれら文献の併読をお願いしたい。

1 米国内出版物の収集

著作権法による民間出版物の納本

米国で出版される民間出版物その他は著作権法第 13 条 (*U.S. Code, Title 17: Copyrights, Chapter 1-13*) 「発行後における著作物の納入」によって LC に納められる。

「著作権を確保したのち、すみやかに著作権局もしくは著作権局長にあて郵便で、発行した著作物の最良の版の完全なもの 2 部、または、著作者が外国の国民であって、外国で発行された著作物のばあいには、当該外国で発行された最良の版の完全なもの 1 部を納入しなければならない。著作物が図書または、定期刊行

物の場合には、この法律の第16条の「印刷手段」にしたがって出版されたものでなければならぬ。著作物が定期刊行物へ寄稿された場合、その寄稿されたものに対して特別の登録が要求されるときに、この寄稿されたものを掲載した号の1部を納本すべし。……」⁽⁷⁾

著作権の対象は、図書、定期刊行物（新聞を含む）、地図、講義・説教・演説の他全部で13項目がきめられている⁽⁸⁾。

このように民間出版物は、著作権局への著作権登録と納本義務の法的仕組で自動的にLCに収集され、その記録がファイルされ、同時に目録化されて蔵書となる。

注

- (7) 土井輝生『インテレクチュアル プロパティ』を参考にした。
- (8) 著作権法第5条。

著作権法制定の歴史と著作権目録

著作権法は1710年英国本土で制定され、これが米国大陸の植民地にも適用されたのが実際の始まりとされている。本国からの独立をなしとげたのちには、1783年コネティカット州の著作権法制定を始めとして次々に各州が同様の法律を制定するに至った。その後1787年に合衆国憲法が制定されて、州から連邦議会へ権限が移り、このもとで1790年最初の合衆国著作権法が制定された。この法律では、図書を出版する前に地方裁判所にタイトルの登録が要求され、出版後に現物を国務長官あてに納本するよう決められていた。

1846年に Smithsonian Institution が創設されると同時にこれまでの国務長官への納本に加えて著作物の1部を Smithsonian Institution へ、1部はLCへと決められた。

これは Smithsonian Library の館長に任命されたジュエット (C.C. Jewett) が著作権出版物の納本により完全な全国書誌をつくる構想をもっていたからである。一方 Smithsonian Institution の所長であるヘンリー (J. Henry) は、ジュエット在職中の著作権出版物の納本等で受入れた蔵書にかなり重荷を感じていた矢先、Smithsonian Institution が火事に見舞われた。1864年LC館長に就任したスポフォード (A.R. Spofford) は国の図書館としての抱負と強い要請とで1865年3月2日、3日議会会期最終段階で著作権法改正を提案し、二つの新しい法案を制定させた。一つは Smithsonian Library にある蔵書をLCに移すために書庫を倍近くに拡張する予算を通過させたこと。もう一つはLCが著作権を有するものの納本受領者となることであった。ここに至って国立図書館のために著作権法による系統的、自動的な資料収集が始まったことになり、1865年から70年までに飛躍的に蔵書数が約、8万2,000冊から23万7,000冊となった。さらに1870年7月8日の改正で合衆国地方裁判所長からLC館長にすべての著作権記録と著作権物の管理責任を移した。この当時からの懸案であった著作権目録は1891年の法律によって正式に刊行が決まり7月1日より週刊で発行される運びとなった。初号は9ページのパンフレットで、*Catalogue of Title-entries of Books and Other Articles entered in the Office of the Library of Congress at Washington, under the Copyright Law, from July 1 to July 11, 1891, inclusive, Wherein the Copyright has been completed by the Deposit of Two Copies in the Office.* という長い書名で、著作権物の種類で図書、雑誌、作曲、戯曲

といった主題にわけ、この中をタイトル、版次、冊数、作者の項と著作権所有者の項の二本立ての記入とした。続く1897年の改正では、LC新館完成(館長ヤング, J. R.)と同時に著作権局もまたLC内に設立され、初代局長にソルバーク(T. Solburg)が任命された。ソルバークは著作権を取得したものの目録の再編成をはかり、納本受入日と登録番号を付け加え、記入は書名のABC順とし、著作権所有者からひける索引を付した。このことは、著作権目録を単なる記録に留めず、図書の受入速報となる構成へと変えていったものである。

ソルバークの業績と印刷カード

ソルバークは著作権局長になる以前、1876~1889年の間に彼の興味ある分野の種々の書誌を手がけていた。1885年には“Bibliography of Literary Property”⁽⁹⁾を *Publishers' Weekly* にのせ、その後単行本で出版している。また *Bulletin of Bibliography*⁽¹⁰⁾ を出版したり、1897年には、international bibliography構想の演説をニューヨーク図書館クラブの会合の席で行ない「現代は図書の敏速かつ完全な記録に加えて、正確で精密な記録を要求している。しかも新しい図書ばかりでなく、古いものにも要求されている。これからの時代は週刊、月刊、年刊の目録を刊行するだけでは足りず、新しい方式による世界の図書を完全に現代から過去までさかのぼって目録化することである。すなわち、新刊書の目録の定期的刊行と全国出版物目録の作成への要求が日に日に強くなっているのである。機械化がこの大きな計画を可能にし、国際著作権連合の設立がその完成を可能にするものである」⁽¹¹⁾ と述べている。

ソルバークの目録に対する深い関りあい

と情熱が著作権制度のもとに収集されたLCの蔵書記録を全国総合目録とする基礎をつくったといえる。またソルバークのこの考えに、当時まだボストン公共図書館長であったプットナム(H. Putnam)も大いに賛成の意を表わした。ボウカー(R. R. Bowker)も「国立図書館として著作権登録で納本される図書の記録が印刷カード形式で目録化されるべきであり、このカードの複製が予約図書館に提供されるなら、役に立つ書誌作成への大きな一歩となるであろう」⁽¹²⁾ と示唆している。

実際にLCでは、ボウカー等の指摘している印刷カードの作成とそれを希望する図書館への配布を準備していた。1898年5月1日付の著作権目録の「図書の部」から写しをつくる作業が目録課で始められた。館長はヤングから1899年4月5日38才の若さでプットナムが就任し、LC印刷カードの組織的な配布計画を実行に移すため、政府印刷局の支部をLCの中に設け、1901年1月から印刷、配布を開始した。

しかしこの時点のLCには図書館として欠くことができないシュelfリストもなく、70万の図書と25万のパンフレットが目録がとられずに放置されていた。そこでプットナムは、これら資料の目録を作成するための予算を議会に要求した結果、ほぼ要求通りの額がみとめられた。そこで目録課では、図書、パンフレット合せて95万を印刷カード化し、再分類する大仕事をあえてやりとげたのである。これが *NUC Pre-1956* に含まれる印刷カード制度以前の資料に相当するものと考えられる⁽¹³⁾。

著作権目録の刊行責任は1906年まで財務省にあったが、7月の法改正でLCの著作権局に移ったことを契機に、*New Series, Catalogue of Copyright Entries (Week-*

ly)と改め、第1部図書、第2部定期刊行物、第3部音楽著作物、第4部美術著作物、写真等に編成し直した(1947年からは3rd. Seriesと変化し、現在に至る)。

現行に近い著作権法は1909年3月4日議会を通過したものである。この時も「目録規定」の条項を改正するにあたってソルバーグとプットナムが精力をかたむけて法案作成にあたった。各界の専門家、学者等の代表の間で内容の論議がなされたが、この改正の意図するところは、要するに登録され、納本されたものについての著作権目録を出版するということと、その目録を希望するところへ配布することにあつたようである。

LCの目録体系が印刷カードへと移行していった段階で、著作権目録の受入速報としての役目は終りをつけ、LC蔵書目録、総合目録と、次々に大きな目録の誕生をみて、単なる著作権登録の記録に過ぎなくなってしまった。

いずれにしても初めは国内の著作物を保護し、外国からの著作権侵害を防ぐ手段としてつくられた著作権目録が、LCの図書館ツールとして使用され、印刷カード作成の基をなし、全国書誌の役目を果たし、当時イギリス、フランス、ドイツにあった目録に匹敵しうる全米総合目録をつくりあげていったことは、初代著作権局長ソルバーグの業績といわれている。

注

(9) Rogers, J.W.: *U.S. National Bibliography and the Copyright Law*, p. 55.

(10) Ibid.

(11) *Library Journal*, vol.22 no.4 p.210. 1897.

(12) Bowker, R.R.: *Bibliographical Endeavors in America*. *Library Journal*, vol.22

no.8 p.387.

(13) 印刷カードにならない手書きカードもあったようで、これらは *NUC Pre-1956* には入らなかった。(LC 黒田氏からの情報)

Catalogue of the Library of Congress

LCでは1802年から1878年までに60種近くのジェネラル・カタログを出版したといわれる。主なものは、1815年トーマス・ジェファーソンの蔵書を購入した時の他、書名目録もあり、分類目録の時もあり、索引のついているもの、ないもの等その時々で異なっている。それぞれの時代の間には補遺や追加目録をも出しているがまったく統一のとれていない目録のようである。1878年に出された著者名目録は、不幸にもA-C, Dの1部が刊行されただけで未完に終わってしまった。これは1841年に刊行されたBritish Museumの目録がAの部のみで中止されたのに似ている⁽¹⁴⁾。LCではこれ以後1946年まで冊子体のジェネラル・カタログを刊行しようとする努力はなされずに終わってしまった。

注

(14) 熊田、安江：パニッツィとブリティッシュ・ミュージアム図書館—蔵書目録刊行中止とその背景をめぐって—(本誌第7号 p.19—42)に
くわしい。

政府刊行物の納本

民間出版物が著作権法で著作権局への納本が義務づけられている一方、政府刊行物は、*U.S. Code, Title 44: Public Printing and Documents, Chapter 18-1718* 「LCへの政府出版物の配布」により規定され、LCへ納本される。

「LCに対し、コロンビヤ地区における

公用および国際交換用に、次にあげる事項について、印刷され、150部を超えない範囲で提供される。

- House documents and reports,
bound.
- Senate documents and reports,
bound.
- Senate and House journals, bound.
- Public bill and resolutions.
- The United States code and supplements, bound.

その他、法の権限のもとに、議会の委員会、省、部、独立機関、国の機関、委任機関または政府職員の要請により印刷されるか、あるいは他の方法で再生産されるすべての出版物と地図。

ただし、機密事項、書入用紙 (blank forms)、公的な性格を持たない回報は除外される。毎月1日に Superintendent of Documents は前月中に印刷された文書の入手場所と価格を公表する政府刊行物目録を刊行する。目録2,000部が頒布用にパンフレットで印刷される。」

政府刊行物は上記法律により、特殊な刊行物を除いてほとんど網羅的にLCへ納本され、月毎に目録 (*Monthly Catalog of U.S. Government Publications*) が作成されている。

しかし、政府刊行物は図書、パンフレット、ドキュメント等多種多様な型で出版されるのでLCに納本されたからといって、すなわちすべてが印刷カード化されることはないのではあるまいか。従って第I章でもふれているようにNUCにのっていないものの数は相当あると思われる。これについては、政府印刷局刊行の上記 *Monthly Catalog* なり、寄託図書館の蔵書目録を参照するよう指示があることから考えられる

ことである。

政府刊行物のはじまりと組織

米国政府刊行物の誕生は1774年、最初の植民地議会から始まる。1789年までは國務省の手書き文書を製本したもの、おおよそ300冊程度のものであった。まだこの頃はこれらを見る人は1人もなかった。1789年に政府が樹立されてから1817年に至るまでは政府刊行物の組織的な制度がつくられぬまま印刷され、*American State Papers* の名称で出されていた。しかし多くのものは全く印刷されず、また印刷されても紛失あるいは火災による焼失でこの時代の合衆国刊行物の完全なセットがどのようなものから成っているのか知る人となかった。またこの図書館にも完全なセットは保存されていない。1817年第15議会になってレポートや文書に系統的な番号を付け出したが、初めての完全なセットは、1833-61年のいわゆる *American State Papers* で、議会と國務省の手書き文書を印刷して出したものである。1894年にこのシリアル番号のある刊行物のチェックリスト⁽¹⁵⁾ を内務省政府刊行物部長 J. G. Ames が作成した。これは多くの図書館にとって助けとなった。

政府刊行物の配布はLCの他、州および准州の図書館、議員の指示する機関、上・下両院の図書館、議員の直接の利用にまた国際交換用にと行なわれてきた。1895年の印刷法⁽¹⁶⁾ の制定は、これまで内務省の中に置かれていた刊行物の配布・販売部を1861年に設けられた政府印刷局の中の Office of The Superintendent of Documents に移し、印刷から配布・販売さらには目録刊行までを義務づけた。印刷法により、政府刊行物の大部分が系統的に一本の線上で

操作される制度が確立した。いかにも米国らしい合理的な方法である。これ以後も、法律改正が行なわれているが、LCに収集される方式についてはほとんど現行に変わりはない。

政府刊行物の組織については、1900年初頭からすでに「神秘の迷路」⁽¹⁷⁾と考えられていた如く、数量、形態、組織が複雑であったことがうかがえる。

なお、政府印刷局で印刷されない各省庁の刊行物もあり、LCではこれら資料を直接収集する手段を講ずることにしている。

注

(15) *Comprehensive Index to the Publications of the U.S. Government, 1889-93*, by J.G. Ames. 1894 40p. 1905年には1881-1893をGPOから出版している。

(16) *Printing Act*, 1895.

(17) Ferrell, L.C.: *Public Documents of the U.S.* (*L.J.* 26, 1901 p.672.)

2 外国出版物の収集

国際交換

米国における外国出版物の収集計画は、LCが1800年6月ロンドンの書籍業者と、最初の図書注文契約を交わした時と云われている。最初の外国(フランス)との政府刊行物の交換は1837年であったが、実際にはLCの国際交換制度が議会で可決された1840年よりさらに後の1867年以後である。Smithsonian Institutionが1846年に創設されて独自の国際交換を始め、次第に発展していき、政府刊行物の交換機関となった。交換資料は、LCが1866年にSmithsonian Institutionからその蔵書に移していることもあって保管を担当することになった。

1869年の中国との交換による多量の中国コレクション、1875年ヨーロッパとの地理関係資料の交換、1907年ロシア語分野での初のGennadius Vasilievich Yudin図書館との交換の例などあげられる。しかし現在の公式交換の歴史は1886年第1回のブラッセル会議の結果、LCが調印国との政府刊行物の交換を始めた時にさかのぼる。それ以来協定のすべてがLCにゆだねられている。1936年ベルーで行なわれた会議では、ブラッセル会議の協定を補なう二国間あるいは行政上の協定が他の国々の外務省との交換覚え書きの形で米国内務省によりLCに代って取り決められた。1958年12月3日パリのユネスコ総会で、この二国間協定が正式に承認されて現在に至っている。この他公式の交換協定のない国とは、1)点数交換、2)等価交換、3)価格、点数にこだわらない比較的自由的な交換、の3つのカテゴリーにより行なうことになっている。

LCではすべての交換協定のもとに年間50万部以上の出版物を受入れ、代りにLCから米国政府刊行物、その他の機関の出版物を送付している。

外国政府刊行物については、次の目録が刊行されているので、*NUC Pre-1956*にのらないものもかなりあるらしく、これを参照にするよう指示がある。

List of the Serial Publications of Foreign Governments, 1915-1931, ed. by Winifred Gregory, for the American Council of Learned Societies, American Library Association, National Research Council. New York, Wilson, 1932.

なお出版物の国際交換契約の変遷と条文について、鈴木平八郎氏の詳細な論文「出版物の国際交換に関する多国家間条約の変遷」(図書館研究シリーズ no.8 p.11-38)

をぜひ参照していただきたい。

第2次世界大戦直後の The European Mission

第2次大戦中米国はヨーロッパの敗戦国との交通がしばらく閉ざされ、米国図書館もヨーロッパの書籍市場への接触を中断されていた。この中でLCだけは公式な資格で政府関係と接触し、重要な資料を確保することができていた。学術図書館側ではこれを不満として、ヨーロッパの資料の入手について、LCが幹旋機関となるよう提案したり、また政府機関に働きかけたり積極的な運動をARLを中心に行なってきた。特に1933年から第2次大戦終了後までのドイツの資料の入手を望み、以前各図書館で注文した資料がドイツの各所にばらばらに保存されており、その引き渡しを要求した。その結果それら資料の引き取りのため、二人のLC職員が派遣員としてヨーロッパへ送られた。

一方、ヨーロッパの被占領国からの収集作業はLCを通して行なうことを学術図書館も確認し、陸軍省もこれを認めてLCを代理機関としてMissionに指名した。Missionは関係図書館の交代で務め、米国占領地区のベルリン、ウィーン、シュタットガルト、ミュンヘンに設置され、フランス占領地区のバーデン・バーデンと英国占領地区のハンブルクに連絡事務所を設けた。Missionは陸軍省と協力して、ドイツに集まっている戦前米国の各図書館で注文した図書の本所をつきとめて送ること、戦争中の出版物の購入、ドイツ軍とナチから確保した資料の梱包と船積み等の責任を持たせられた。

これら収集した資料の数量は1946年6月で102万4,565冊にのぼった。

この他、最も重要な資料が、1939年以前世界のブック・センターであったライプチヒに集まっており、ここはソビエト占領地区であったため、Missionはソビエト側と折衝して、およそ当時の価格で10万6,000ドルに相当する図書と定期刊行物を収集した。

収集した資料の配分をきめる外国収集資料配布に関する勧告委員会(Committee to Advice on the Distribution of Foreign Aquisition)がつくられ、委員がALAを始め、ARL、学会等から選出された。集めた資料の配布をどうするかにつき検討がなされ、115館へ配布することで分野をきめた。割当をうけた図書館は、LCに総額26万ドル以上を送ることで、さらに補充すべき資料購入の基金とした。

この他10万冊にのぼるドイツ図書が検閲局からLCに返還された。この内6,000タイトルがLCの蔵書として加わり、残りは委員会のきめた分担に基づいて他館に配布された。これら資料はすべてNUC Pre-1956で所在がわかるであろう。

ファーミントン計画による協力収集

この収集計画は、調査研究を対象に米国全体の資料を増大させる目的で、ARLが発起役を務め、60の図書館が分担収集の責任をひき受けるという任意の協定で行なわれたものである。世界中の国で出版された新刊書を収集し、米国のどこの図書館で所蔵する。所蔵館はLCに報告し、中央目録作業で印刷カードを作製して各館に配布する。資料は相互貸借または複写サービスによって利用するという方式である。

ファーミントン計画の名称はLC Executive Committee of the Librarians Council⁽¹⁸⁾(館長協議会運営委員会)が

「書誌と収書における国家計画」の提案を討議するために開催された会議の場所、コネチカット州の町の名からとったものである。

この会議は1942年10月9日に行なわれたが調整や準備のため6年の歳月を費やし、1948年に初めて実施に移された。初年にはたった3ヶ国（フランス、スウェーデン、スイス）の出版物を収集したに過ぎなかった。

参加館は50の大学図書館に加えて、LC、国立農業図書館、国立医学図書館、ニューヨーク、ブルックリン、デンバー、デトロイトの各公共図書館、アメリカ哲学会、リンダホール、ニューベリーの図書館で、運営と管理はARLとその地域小委員会⁽¹⁹⁾の手で行なわれた。

収集には二通りの方法がとられた。1つは、主題責任分担制、もう1つは国別責任分担制である。前者は西ヨーロッパ13ヶ国とオーストラリア、ニュージーランド、南アフリカの16ヶ国に適用し、LC分類に基づく主題責任分担表により担当主題館に新刊書1部を各国の書籍業者を通じて送る。後者は120ヶ国以上に適用、1図書館が1ヶ国をカバーする責任を負うものである。

この計画で米国の図書館にもたらされた資料は1953-60年までで14万7,376冊(39万7,235ドル)⁽²⁰⁾、1965年の2万2,419冊(10万7,438ドル)⁽²¹⁾との統計がわかるだけで総計ははっきりしていない。

1948年に実施されてから約20数年、この計画は、1972年12月31日をもって正式に終了したとしている⁽²²⁾。これは次項のPublic Law 480 ProgramとHigher Education Act of 1965の制定により、学術図書館に分散収集をはかったファーミント計画の中止を正当化できるからである⁽²³⁾。

最近では学術図書館センターが国立貸出図書館として発展し、予算を要求して60の参加館に分散した資料を引きうける提案がなされているという。

注

- (18) LC館長マクレイジュ、プリンストン大学、ハーバード大学図書館長の3人。
- (19) アフリカ、東ヨーロッパ、極東、ラテンアメリカ、中央アジア、南アジア、西ヨーロッパ。
- (20) *Farmington Plan Handbook*, rev. ed. ARL 1961.
- (21) *Encyclopedia of Library and Information Science*, Farmington Planの項
- (22) Edelman, H.: *The Death of the Farmington Plan*. (*L. J.* vol. 98 no. 8 p.1251 1973)
- (23) ②)と同じ

Public Law 480 Program による収集

PL 480とは開発のおくれた地域に米国の余剰農産物を売って、原地通貨で支払をする「農業貿易振興援助法」⁽²⁴⁾のことで、1954年議会を通過し制定された法律である。これが1958年に改正され、第104条に次に掲げるn項が追加されたものである。

「全国科学財団および他の関連諸機関と協議して、LC館長の監督下に、次の諸計画の資金を供給する。(1)外国の図書、定期刊行物およびその他の資料を分析評価して、それらが合衆国において科学技術的に重要性をもつ情報を提供するか、あるいは文化的もしくは教育的価値を有するか否かを決定する合衆国外における計画 (2)価値あると判断された図書、定期刊行物およびその他の資料の登録、索引、製本、複製、目録、抄録の翻訳および配布 (3)これら図書、定期刊行

物およびその他の資料の受入とそれらの資料に関する地域研究を進めている国内の図書館および研究機関への資料の納本」⁽²⁵⁾。

すなわち政府が外国へ余剰農産物を売って、政府の必要を超過した時に生ずるその国の通貨をLCに委託して関係国の出版物を購入し、目録・索引の作成、抄録および関係活動と学術図書館へ資料を配布することに使用するのを目的としている。

ファーミントン計画と比較してPL480プログラムは特に収集困難な発展途上国(インド、インドネシア、イスラエル、パキスタン、アラブ連合、ユーゴスラビア、ネパール、スリランカ)の出版物を、LCが収集の任にあたり、学術図書館が資料の受入を担当するところに特徴がある。

実際に資料収集が始まったのは1962年である。現在40館以上の機関が少くとも2ヶ国以上から包括的に出版物を受け取っており、各館はこれに対して1ヶ国につき500ドルを支払うよう要求される。また1964年からは、小規模だが50州とコロンビア地区、プエルトリコにある約300館に英語の雑誌と単行書を配布する計画が加わった。

PL480プログラムでは関係各国にLCのPL480海外事務所が設けられ、収集、配布作業ばかりでなく、米国の関係図書館に送られる以前に予備目録がとられ、この情報が出版物と一緒に図書館に送られる。またユーゴスラビア⁽²⁶⁾を除いて受入速報⁽²⁷⁾を刊行している。

1965年にロックフェラー財団から補助金を受け、スリランカ、インド、ネパール、パキスタンの新聞がマイクロ化され、LCの複写サービスによって購入できるようになった。

超過通貨を使いつくしてしまったインド

ネシアは1969年一杯で、スリランカは1973年6月30日で、イスラエルは同じく5月でPL480プログラムを終了し、ユーゴスラビアとインドネシアはNPACへと引き継がれることになった。

1962年1月から71年6月30までの収集総数は1,400万を超えている⁽²⁸⁾。

注

(24) Agricultural Trade Development and Assistance Act of 1954.

(25) 小林英治：アメリカの大学図書館—利用、協力、収書—(図書館研究シリーズno.12 p.99)を参考にした。

(26) NPAC と共同で出される。

(27) Accessions List: India の如く。

(28) Annual Report of the Librarian of Congress. 1971年版より、新聞・逐次刊行物・単行書。

高等教育法 Title II-C

ファーミントン計画は参加館の任意の協力で、PL480プログラムはLCが中心になって当該国から資料を学術図書館へ直接受入れ、NUCに報告する方式であり、資料は米国図書館に分散して保管されてきた。これに対して、ARLを中心とする各図書館では、資料は一ヶ所(LC)で集中的に収集し、直ちに目録をとり、印刷カードを各図書館に配布することで、各館での目録作業その他の二重三重の無駄を節約することを提案し続けてきた。この提案をうけてたったマンホードLC館長は、議会の公聴会で最終的には全面的な支持を表明し、実現に努力することを約束した⁽²⁹⁾。そして下記の高等教育法(Higher Education Act of 1965. Title II-C)の制定となった。

「大学および学術図書館資料の強化」

「1965年会計年度の終る1966年6月30日

までに500万ドル、1966年会計年度の終る1967年6月30日までに631万500ドル、1967年会計年度の終る1968年6月30日までに777万ドルを補助するよう法で定める。次の(1)(2)を目的として教育局長官はLCに委託することができる。(1)世界中で新しく出版された学術的価値あるすべての図書館資料をできる限り収集する。そして(2)これら資料の受入後すみやかに目録をとり、印刷カード、その他の方法により書誌的情報を提供する。LCが自館の蔵書として必要ない資料を交換および他の目的に使用できる。

1968年会計年度の終る1969年6月30日以後の年度のために議会がこれ以後法律で定める額だけそれらの目的のために教育局長官は、LCに予算を移管することができるよう定めるものとする。」

注

- (29) Higher Education Act of 1965. Hearings before the Subcommittee on Education of the Committee on Labor and Public Welfare, United States Senate, 89th Cong. 1st Sess. on S600 Part II.

収書および目録国家計画

デューイがユニット・カードを考案した時とLCが印刷カードの配布を始めた時以来の図書館界における最も重大かつ遠大な発展⁽³⁰⁾との讃辞をうけたこの計画を多くの図書館人は思い起すであろう。

高等教育法の制定にともない、LCではさっそく収書および目録国家計画(National Program for Acquisition and Cataloging)を検討し、1966年開始した(以下NPACと略す)。

NPACはShared Cataloging Program

の副題をもち、LCが今までより一層広い範囲で目録作業を集中的に行なうばかりでなく、米国図書館、カタローガーおよび外国図書館等が、図書館資料の組織化を機能的にするため、世界的規模の努力で協力することを意味している。

LCは、1966年から1973年までに、総計4,089万588ドルの予算⁽³¹⁾で目録作業とそれを支える人員を増加し、24ヶ国の全国書誌の目録データベースを刊行以前に利用調整した。外国に10ヶ所のShared Cataloging Center⁽³²⁾を設け、LC整理部にはShared Cataloging Divisionを新設し、選書と注文のスピード化を計るために受入の手続きを変更した。今だに全国書誌も、この計画を行なう上に有効な書籍会社もない国々の受入リストを出版するために、外国収書事務所⁽³³⁾を3ヶ所設けた。またGPOのLC支部で印刷カード作製を早くさせる非常印刷体制をしき、新しい印刷カードの完全な寄託セットをほとんどの学術図書館に毎日配布するようにした。

スピードがNPACの成功の基本だという考えから、外国の書籍会社からの一括購入明細書によってできるだけ早く図書を選択し、LCへ送る。予備カードが用意され、Shared Cataloging Centerにある図書とつきあわせて一週間毎に航空便で送らせる。

この結果、印刷カードはおよそ75%が図書到着後数週間以内で関係機関に渡っている。

NPACの行方

図書館界の期待に応じてスタートしたNPAC号は、順風にのった船出で走り出したかにみえたが、この大きな計画を支える補助金は1965年当初定められた額を完全に

受けたことがなかった。ニクソン政権に移り、1970年教育全般に対する予算削減の中で、特に図書館関係費はいちじるしかった。これはニクソン大統領の図書館界に対する理解の不足と、米国が介入していた戦争に膨大な予算を投入したため、国内計画が制限をうけたのだといわれている⁽³⁴⁾。

1973年度予算でまたまた図書館関係費が大巾な削減を強いられた。これに対し、5月時あたかもラスベガスにおいてALA総会が開かれていた時期に当り、ALAを中心に図書館界が一斉に抗議行動を起した。

いわゆる“図書館の灯を消す運動”を展開し、米国の図書館の電灯を15分間まったく消した行動や、大統領および州知事に訴える手紙を書くなどにより、図書館の存在意義を政府関係者および一般の人々にも理解させた。これらのことで1973年度予算の70%から80%の復活をみたということである⁽³⁵⁾。

NPAC号進水より8年、その進路には予算縮少の障害が立ちばかり、新しい計画はおろか現在の計画さえ縮少されつつある中で今後の問題が山積されているように思える。

注

(30) *Unesco Bulletin for Libraries*, vol.22 no.1 p.9 Q. Mumford氏の論文の冒頭に引用された J. Orne 氏の言葉

(31) *NPAC Progress Report* より。

(32) ロンドン、ウィーン、ピースバーデン、パリ、オスロ、ハーグ、ベルグレイド、フロレンス、東京、バルセロナ。

(33) ナイロビ（エチオピア）、アフアル・イッサフランス統治国、レユニオン島、マラガイ共和国、マラウイ、モーリシオス島、セイシェル諸島、ソマリー共和国、スーダン、タンザニア、ウガンダ、ザンビヤをカバー）リオデジャネイロ（ブラジルをカバー）ジャカルタ（イ

ンドネシア、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、をカバー）

(34) Moore, E.T.: *The National Program for Acquisition and Cataloging in the U. S.A.-It's Prospects in the Early '70's.* (*Library and Information Science*, no.9 p.340)

(35) 1973年10月12日、当館で行われたハワイ大学教授鈴木幸久氏の講演より。

むすびにかえて

米国の総合目録は図書館間相互協力のネットワークで成りたっている。

「こうしたネットワークは確かにアメリカ的合理主義が生んだものにちがいない」⁽³⁶⁾と我々も思う。しかしそればかりでなく「アメリカでは、知識は万人が自由に、かつ容易にそれを求めべきものであり、それこそ個人の独立を基本にした自由な社会を支えるそもその基盤であることをアメリカという移民社会は本能的に知っているように思われる。図書館人こそがこの基盤の担い手であることの自覚に発している」⁽³⁷⁾との見方は、我々図書館界もライブラリアンシップの基本として再確認しておくべきものであろう。

基盤の異なる日本では今のところ誰しもが即米国方式を移し入れることは不可能と考えている。

日本の場合、大学図書館の利用上の全国的協力は、制度として確立していない。国立大学図書館間、私立大学図書館間など館種別、地域別には近年次第に相互協力が芽生え、発展しつつある。しかし種々の事情から大部分の図書館はまだ門戸を解放するまでに至っていない。

総合目録は図書館間相互貸借制度なしに

は考えられない問題であり、日本で発展しえない理由の一つがここにある。

日本での真の意味の全国総合目録を作成するためには、唯一の国立図書館としてまた納本図書館として果たすべき当館の役割の検討と、大学、公共、その他の図書館の受け持たねばならない分担協力体制の機運をもちあげ、強力な予算措置を講じることである。

現在、和書の総合目録として『国書総目録』が、洋書では『新収洋書総合目録』があるが、いずれもすべての時代をカバーするものではない。特に当館では戦前の洋書が少なく、歴史のある大学図書館にたよらざるを得ない。大学間の協力ができつつある現在、当館が呼びかけてこの部分の総合目録刊行を考えたらと思うのだが。

LCはもとより、大学・研究機関・公共の図書館協力のもたらした NPAC を始めとする種々の計画に関心のある我が国の大学図書館が当館館長とのこん談会で、「図書館資料の増大の現状からみて日本でも NPAC のような計画をするために国会図書館は大学と協力して政府に働きかける意志があるか」の質問が出された。これに対して当館では、「このような制度を早急に実現することは困難であるがそこに盛られている精神は十分に体して進みたい。総合目録については当館が中心となり館界相互協力により作成に努力すべきだ。まず和書の総合目録の整備を考えたい」⁽³⁸⁾ との主旨の答弁をしている。その後、『明治期刊行図書目録』第1巻の序に「これをもって明治の書誌として完成したものではない。この目録を底本として、その時代の全出版物の総目録をつくり、所蔵館のロケーションを含め、完備したい」と当館の姿勢をうち出している。

現在コンピューターによる和図書の目録作成の動きが盛んに行なわれ、実験作動しているが、わが国の知的財産をいつでも、どこでも見ることのできる総合目録作成への歩みこそ急いでも急ぎすぎることはない。

本稿は第I章と資料の項を枝松、第II章を土井が担当し、その他は共同執筆した。

最後に短期間での勉強で知りつくせなかったこと、書き足りなかったことが多いが、高橋泰四郎氏始め数人の方々にご教示頂いたことをここで深く感謝致します。

注

- (36) 大泉悦郎：全世界文献資料の包括収集とカタログの集中作成（『現代の図書館』vol.8 no.3 p.116）
- (37) 前掲。
- (38) 昭和43年5月25日、国立国会図書館長と関西地区大学図書館長とのこん談会（『びぶろす』vol.9 no.8 1968 p.3-5）

参考文献

- Rogers, J. W.: *U. S. National Bibliography and Copyright Law; a Historical Study*. New York, Bowker, 1960.
- Schulman, G.: Appendix to Statement of G. Schulman in 89th Cong. for the General Revision of the Copyright Law, Title 17 of the U.S. Code.
- Ferrell, L.C.: *The Public Documents of the U.S.* (L.J., 26. Sept. 1901 p. 671-4)
- Williams, E.E.: *Farmington Plan Handbook*, rev., Association of Research

Libraries, 1961.
Encyclopedia of library and Information Science, vol.8 p.361 Farmington Plan の項
Lorenz, J. G. et al.: The Library of Congress Abroad. (*Library Trends*, vol.20 no.3 Jan, '72 p.548-67)
Moore, E.T.: The National Program for Acquisition and Cataloging in the U. S. A.; It's Prospects in the Early 70's. (*Library and Information Science*. no.9 '71 p.337-42)
Annual Report of the Library of Congress, for the Fiscal Year Ending

June 30, 1946. The Story up to Now.
" 1962-71.
山下信庸: 政府出版物の納本制度について (図書館研究シリーズ no.14)
青木孝雄: Farmington Plan 海外における協力収集活動の一例(医学図書館 13巻 3号 p.187-94 '66)
鈴木平八郎: アメリカ議会図書館—その National Library としての歩み—(図書館研究シリーズ no.11 p.1-87 '67)
鈴木平八郎: 高等教育法とアメリカの図書館 (現代の図書館 第5巻2号 p.79-105 '67)

資料

The National Union Catalog, Pre-1956 Imprints の歴史

J.W. Cronin, History of *The National Union Catalog, Pre-1956 Imprints*. in *Prospectus for the National Union Catalog, Pre-1956 Imprints*. pp.11-27 (1967).

この全米総合目録 (以下 NUC と略) は、1901年以来 LC が管理してきた、アメリカとカナダの主要な図書館にある学術文献の中央記録である。中小の大学図書館が多いが、700 館以上が報告を寄せている。地方出版物、国外の資料、市販されない資料など特殊資料を収集している一般図書館や専門図書館も含まれている。こうした中央記録の確立、維持によって多様な利益がもたらされる。……(略)……

ジェネラル・カタログとして NUC は、国の重要な資料資源を学問社会に近づけ、いわば学者の図書館の一部と化するもの

で、わが国大図書館の蔵書に蓄積された知識の大部分を開く鍵である。……

本目録が完結し、資料の所在、レファレンス、選書、目録のためのツールとして全米図書館の利用に供せられるなら、それこそ今世紀初頭 LC が始めた印刷カード館外配布サービスに匹敵しうる一歩となろう。こうした発展の途は、すでに以前に築かれていた。

NUC の背景

1876年の C. A. Cutter 「辞書体目録規則」に大きな刺激を受けて目録の標準化が

成り、さらに標準目録カードが導入されて、協力の開始、すなわち図書館間のカード交換が可能になった。今日のNUCの基礎はそこにあった。LCが自館用に印刷カードを作成し始めて直に、当時の館長 H. Putnum 氏は LC 年報 (1900 会計年度) で次のように記している。

自館の資料を公開することに次いで重要なことは、LC が他館の資料に関して情報提供できることである。このため次のことが考えられる。

第一 国内外の図書館の蔵書目録の収集

第二 ワシントンの省庁図書館蔵書の著者別カード目録

第三 ワシントン以外の主要図書館数館の同様な目録

LC の印刷カードを国内の主要な調査センターにおきたい。一方 LC では、ニューヨーク公共図書館、ボストン公共図書館、ハーバード大学図書館、ジョン・クレーア図書館その他のカードを入手したい (p. 241)。

1908 年度年報では、先にあげた図書館を含む多数の図書館との交換協定について報告し、ファイル完成後には、「ユニオン・カタログは……アメリカの図書館にある図書の完全記録に最も近づくものになるだろう」(p. 57) と彼の信念を表明している。これらの図書館や、その後加わった諸機関、特にニューベリー図書館、イリノイ大学、シカゴ大学各図書館などの協力で、NUC はやがて「合衆国学術図書館の宝庫」となった^{*)}。

最初の 4 半世紀、総合目録は LC のカード部で運営され、維持またはサービスにあたる専任職員はいなかった。基本記入の訂正や重複の整理などはほとんど行なわれ

ず、若干の所在サービスには応じたが、これを利用したのはもっぱら LC のカタログガーだった。

1926 年までに約 200 万枚のカードに達したが、学者の必要性を充足するにも、また他館における資料の所在確認の上でも不十分であった。その結果、包括的な総合目録を求める広汎な要求が ALA から J. D. Rockefeller 氏に伝えられ、同 2 世は、LC に 25 万ドル (年間 5 万ドルで 5 年間) 寄附した。目的は、総合目録をできるだけ速かに拡大して重要な参考文献の少なくとも一部の所在を明かにすることであった。これは「プロジェクト B」として 1927-32 年の期間運営され、634 万 4,356 枚のカードが増えた。「プロジェクト B」は、1932 年 9 月総合目録部設立となって引き継がれた。

1932 年から 43 年までの予算は、先のロックフェラー基金と比べれば年間 2 万 5 千ドルに減少したが、総計 335 万 5,941 枚のカードが増加した。この間 ALA の Committee on the Resources of American Libraries (1923 年 J.T. Gerould 委員長のもとに設立、1936 年委員長に W.W. Bishop をもって ALA の一部に再組織) から受けた激励と援助についてここで一言ふれたい。

Bishop 氏は早くも 1912 年の時点で、国内の図書の所在を示すツールの必要を説き、LC の印刷カードに基いてコロンビア地区の官庁図書館の共同目録、および LC にない資料の他館のカードファイル化を指摘し、総合目録の拡張を訴えてきた。……

1943 年には総合目録の予算が増額し、続く 5 年間でクリーブランドとフィラデルフィア地域の総合目録を組み入れ、さらに他の連邦図書館から 22 万 1 千枚のカードを追加した。1948 年総合目録は正式に全国総合目録と命名された。1948 年と 50 年の間に、

エール大学図書館の目録、ノース・カロライナの総合目録がそれぞれ含められ、後にカリフォルニア大学のシェルフ・リストも加えられた。以後ずっと安定した伸びを続け、NUCは今や1千600万枚以上のカードを蔵している。約1千万タイトル(版の別を含めて)になる。

* E. C. Richardson, Paper XIV: Project B-Increase of the Bibliographical Apparatus: From the Report of the Librarian of Congress, December 3, 1928, pp.238-50, in *General Cooperation and American Research Books*, p.106.

冊子目録—LC蔵書目録から総合目録へ

NUCとLCの他のカード目録はそれぞれの発展を続けてきたが、1940年代前半に新たな飛躍を遂げた。これまでLCは、印刷カードの‘寄託セット’を100以上の大図書館に送付してきたが、それを利用できるのは大きなセンターに於てのみだった。1941年ARLの委員会(Bishop委員長)は、LCのこの寄託カードを複製し、冊子体で刊行し、内外の図書館に入手しやすくするという計画を提唱した。これにはさらにもう一つの目的があり、寄託カードの維持に要するかなりの費用を救済することも含まれていた。……この計画のもとに、カードを写真複製して、1頁に18枚を縮小してプリントする印刷目録が生まれた。A *Catalog of Books Represented by Library of Congress Printed Cards Issued to July 31, 1942* がその成果となって1946年に完成し、Edwards Brothers, Inc. から刊行された。これは167巻にも達し、約190万枚のカードが複製された。ここに一サイクルがめぐり、半世紀間多くの図書館があ

きらめていた冊子目録がよみがえった。A *Supplement: Cards Issued August 1, 1942-December 31, 1947* (42巻) が続いて1948年刊行された。

一方、1946年3月H.W. Wilson社はこの冊子目録継続の計画を提案していた**。この提案と先の目録の売れ行き好調により、LCは同じ形式の冊子目録を継続する検討にのりだし、一連の実験と調査を経て、1947年1月から *Cumulative Catalog of Library of Congress Printed Cards* を刊行し始めた。1950年には *Library of Congress Subject Catalog* の刊行を開始、*Cumulative Catalog* は *Library of Congress Author Catalog* と改題された。1953年、地図・映画・フィルムストリップ・音盤の別冊目録刊行におよんで、前の目録は *LC Catalog-Books: Authors* (LC *Catalog* と略) および *LC Catalog-Books: Subjects* となった。

これらの目録は、冊子体としては非常に包括的なものとなった。だが、国内の重要な収集資料を網羅しているとは言えなかったし、一方他館からの報告をこのLCの目録に含めれば、その効用ははるかに広がることも明らかだった。LC *Catalog* をやがては全国の図書館所蔵資料の総合目録とする方向に意見がまとまり、LCはこの目標に向かって動き始めた。

1954年ALAの Board on Resources of American Libraries は、F.H. Wagman 氏を委員長としてNUCに関する小委員会(以下NUC小委員会と略)を新しく設置した。委員会は、1954年10月、1955年1月LCで会合をもち、LC *Catalog* を拡大して他館の報告を含める、それによって国内の図書館が収集した新しい学術図書 of 著者別目録とすること、NUCに収録された情

報を広く利用者に提供するという案を検討した。……多くの図書館の支援があれば、それは実現できることがわかり、その結果1956年1月から *LC Catalog* を拡充することに決まった。これには、LCカード以外に他の北米図書館から報告された1956年およびそれ以降刊行の図書とその所在を含めることとした。各図書館の反響は絶大であり、この拡充版は新たな役割を考慮して *National Union Catalog: A Cumulative Author List* (以下 *NUC* と略) と再び名前を変えた。この発表は、図書館資料の書誌管理に向ってきた長い歴史に一転機を画し、次の発展へのカンフル剤となった。……

このようにして収集と目録の書誌の管理の突破口が開かれたが、それはこれらの管理をさらに拡大する必要性を浮き彫りにする結果となった。すなわち1955年までの資料について *NUC* を編集、刊行することが最大の懸案となった。E. C. Richardson, J. C. M. Hanson, K. Metcalf, C. W. David, R. B. Downs 氏は特に長年にわたり *NUC* 刊行の必要性を強調してきた。また *ALA* の *Committee on Resources of American Libraries* や *NUC* 小委員会の忠告と助言を受けて、特に V. W. Clapp, F. H. Wagman, C. W. David, R. E. Ellsworth, H. H. Fussler, D. W. Bryant, G. R. Williams 氏らの指導のもとに、*LC* はその可能性を追求した。1956年以降については冊子体の *NUC* が刊行されたことで、1955年を最終期限と定めてそれ以前の部分を凍結させる結果となった。だが、全体の *NUC* 刊行にはまだまだ多くの困難な問題——編集・技術・財政上の——があった。1952年、*NUC* 刊行計画の第一歩として、また特にその規模と費用を定める手段

として、総合目録部で *LC* のカードを含めて1952-55年刊行図書のカードを別だてにファイルし始めた。これらのカードは1956年始めて約37万6千枚、1960年1月には約56万枚に達した。そのうち、*LC* カード約21万5,500、他館のカード22万5千枚、それに重複カードを含め副出記入の参照カード10万枚だった。

1956年以降刊行されている冊子体の *NUC* の価値が証明され、また1952-55年のファイルが小規模な総合目録の型を成し、編集・刊行も可能であるという事実から、1959年 *NUC* 小委員会はその部分を簡単な印刷で刊行することに決定、必要な資金獲得に成功した。この企画は、J. L. Dewton 氏を監修者および編集者として1961年に達成され、*The National Union Catalog 1952-55 Imprints* (30巻) が予約者に配布された。……

NUC を刊行することは大事業であるが、従ってその恩恵もまた非常に大である。1952年1月、R. Hirsch は *NUC* 小委員会の委員長あての書簡で、表面に現われない利点を次のように克明に説明している。

1 収集 (a) 高価な資料の重複購入を全国規模で回避 (b) 欠本を全国規模で補充 (c) 長期的購入計画の確認 (d) 古書評価、すなわち、*NUC* は非常に重要な選書手引きとなり、照合を簡略化する

2 目録 (a) 記入の標準化 (b) 可能な限り記入の記述部分を利用できる (c) 簡単な記述の場合の照合

3 相互貸借 最少限の努力で、新刊以外のより古い部分の資料の所在を国内規模で確認できる

4 レファレンスと調査 (a) 図書館の場合 (1) タイトルの確認 (2) 希望

資料の所在を閲覧者に知らせる (3) 個人著作目録や図書館蔵書目録の代替 (b) 閲覧者の場合 著作目録, 官庁資料目録などとして利用できる

5 閲覧目録 スペースやファイルの費用節約

NUCの編集は今や基本的なこととなり, 重要な問題提起となった。編集作業は一定限度に限定されるが, 結果的には利用度の高い実用的なツールをもたらし, 費用をかけるに十分値するものとなろう。そして次のような線で進めることが提案された。

1 同一書名・版のものは一枚のマスターカードにまとめる。選ばれるカードは, LCのカードまたは最も完全な情報のあるカード

2 同一作品に対し, 基本記入と副出記入の不一致をなくし, 直接参照と矛盾する記入は変更する

3 各種の名前で記入された著者名は一本化

4 著者よりも地名標目などのようにALA目録規則と一致しないものは調整する

5 数は少ないが, 他のカードからマスターカードに書誌的事項を移しかえる, すなわち若干の合成カードを作成…

** H. W. Wilson, *A Proposed Plan for Printing Library of Congress Cards in Cumulative Book Form* (N. Y., H. W. Wilson Co., 1946)

Pre-1956 の刊行の可能性

NUC小委員会は, 1955年までの目録刊行に向けてあくまでもその方法を追求し, またその刊行を援助することを公けにし

た。そして既刊の1952-55年の目録は, それ以前の部分に統合するよう提案した。確かにこの巨大な目録に匹敵するほどの有効な企画は他にあり得ないだろう。……

この目録の刊行は, 全米, カナダの図書館にある重要な文献の所在を示す広範な図書館間目録を実現化させることになり, それこそ現在および将来にわたってアメリカの学界の必要性に応じるため切実に求められているものである。所在ツールとしての効果は別表のとおりである。この表は, 1945-66年の22年間にLCで受けた所在調

別表 所在調査依頼件数

Requests for research in the National Union Catalog

Date	ITEMS REQUESTED	ITEMS FOUND	ITEMS NOT FOUND
1945	9,125	6,371	2,754
1946	9,308	6,670	2,638
1947	11,609	8,117	3,492
1948	11,745	9,243	2,502
1949	12,522	8,557	3,955
1950	15,815	11,084	4,731
1951	17,272	12,199	5,073
1952	17,274	11,874	5,400
1953	17,899	12,016	5,883
1954	15,918	11,261	4,657
1955	18,861	13,331	5,530
1956	19,451	14,382	5,069
1957	20,383	15,490	4,893
1958	24,270	18,066	6,024
1959	25,999	21,772	4,227
1960	27,671	21,793	5,878
1961	30,062	24,313	5,849
1962	32,825	24,451	8,374
1963	32,345	25,367	6,978
1964	32,478	25,557	6,921
1965	35,013	28,563	6,450
1966	40,937	33,283	7,654

査依頼を示している。1945年9,125件だった依頼が1965会計年度には4.5倍の4万937件に上り、この間一年毎に増えている。1945年所在不明のタイトルは、1966年の19%と比べて平均30%もあった。1956年NUCの刊行が開始されてからは、それ以降の資料に対する所在調査依頼が非常に減少したというのは、表には表われないが注目すべき傾向であった。もしもNUCおよび1952-55年の部分が発行されなかつたら、依頼は1966年には当然もっと増えただろう（現在はおそらく年間6万件以上の依頼がある）。従って計画中のこの総合目録を利用できるようになれば、各館は要求の80%以上に応じられるだろう。

刊行計画

1952-55年の目録刊行に力を得て、1963年NUC小委員会は、それ以前の部分を完全に含めたNUCに全力を注ぐことを決めた。この目録刊行に対し入札募集することが、同年10月ワシントンの会議で一致した。落札したものが編集費を支払い、その費用は後で目録販売により償還される。もし入札がうまく行かなければ、編集費用の資金確保の努力をする。それに失敗すれば、各館がその費用を保証するなどのことも決められた。

第一段階として、1964年6月ALAとLCの間で正式協定が結ばれた。ALAは、LCの目録編集に対する資金確保を引き受け、また今後の目録も冊子形式で刊行するという点でも同意が成った。

1964年12月ワシントンでの小委員会の席上、シカゴの学術図書館センター（Center for Research Library）のG.R. Williams委員長長の報告によれば、少なくとも3社が

この入札に関心を抱き、編集印刷費の前払い態勢を示していた。小委員会は、3種類の方式—図書形式、マイクロフィルム、電算機処理方式—を検討した。結局、読み易いタイプ字の大ききでオフセット印刷にすることに決めたが、後に変更の余地も残すという条件つきだった。

1965年3月再びワシントンに集まった小委員会では、機械判読のNUCと印刷された冊子目録との関係に含まれる諸問題に検討を進めたが、その問題は非常に複雑であるという結論に達した。理由は、目録の規模の問題、カードの編集には正確さ、統一性を必要とすること、またこの目録の元版の問題、多分今後最新版のNUCは機械化される関係などの点であった。

小委員会はいくつかの最終結論に達した。最も重要な点は、たとえ将来機械判読の形になったとしても、現在のNUCを冊子体で刊行することが望ましいということだった。……従って小委員会は、出版社の提案に応じて、最初はオフセット写真用目録カードの形で印刷原稿を渡す方法により、できるだけ早く目録の刊行を開始することにした。同時にLCに対し、複製用に目録カードをいくつかりタイプする時、副次的に機械判読用の記録を残せるかどうかの可能性を調査するよう要請した。これは、将来NUC全体に変化があった場合の備えに十分なり得るからである。小委員会はまた、出版社に渡す原稿が3×5以外のカードの場合もあるという権利を留保した。

……1966年8月、入札募集の最終日に3社から見本頁をつけて入札が提出された。これに際して判断の基礎は、価格であった。個々の場合について検討した結果、小委員会は最も安い販売価格と最も満足な元

版を提示した Mansell Information Pub. Ltd を選んだ。協定に基づいて、Mansell社は出版にかかるすべての経費を負担する。またLCでの編集作業の費用を調達することも請負った。小委員会はその後ALAの代理人にたいし、双方に満足の行く契約を交渉するように要請し、交渉は1967年1月まとまった。ALAは同年2月この計画を発表し、その月末からLCは整理部にスタッフをおいて編集に乗りだした。その主任は、J.L. Dewton氏、次長はN. N. Mendeloff氏であった。NUCはLCの編集作業が進むに従って刊行される運びとなった。1967年3月、ALAはロンドン事務所助言者および編集責任者として、元ニューヨーク市総合神学校の主任カタローガー R. Eisenhart氏を任命した。同じ頃、編集集みの最初のカード27,000枚('Absyrtus'まで)がロンドンに届いた。各巻704

頁全巻約610冊の第一巻分であった。LCの167年の歴史上最も大規模な書誌計画であり、また印刷史上最も量の多い冊子目録となるこのNUC-Pre1956が端緒についたのだ。

追補

米国政府刊行物総合目録 *The National Union Catalog of U.S. Government Publications*. 4 vols., Carrollton Press, Inc., 1974 Jan. が今度始めて刊行されたという新しい情報を、この原稿がすでに我々の手を離れたあとと入手した。これは1973年11月現在で米国の1,122の図書館がどのような政府刊行物を所蔵しているかを示すものである。これにより、今までの目録では不備であった政府刊行物の所在をつきとめる新しいツールができたことになる。

(どい・としこ 一般参考課主査)
(えだまつ・さかえ 同 副主査)

レファレンス事例

夏目漱石の友人

佐藤友熊の経歴について (個人)

[回答]

佐藤友熊の名は夏目漱石の作品『滿韓ところどころ』にしばしば見えることは、すでにご承知かと思いますが、当館蔵書中の同作品本文、および『漱石全集』(岩波書店 昭和41—42)『夏目漱石全集』(筑摩書房 昭和46—48)『漱石文学全集』(集英社 昭和45—48)等に付載されている注解(または語注)のうちから、佐藤友熊の履歴事項を総合した結果、友熊は明治42年9月頃旅順で警視総長をしていたことが判

明いたしました。

そこで、この「旅順の警視総長」を手がかりに『職員録』を調査したところ、明治41年5月1日現在から大正6年5月1日現在までの各年の『職員録』のうち、関東都督府民政部警務課課長の欄に友熊の名が見当りました。もちろん警視総長の職名が付されています。ただ、就任・辞任の年月日までは、この『職員録』では不明でした。

また、この関東都督府の前後の経歴については、漱石の交友関係を詳細に調査、研究したものが見当らず、比較的新しい研究成果をとり入れているといわれる集英社版『漱石文学全集』掲載の友熊の注解にみえる<伝未詳>という記述(10巻582頁参照)に尽きるかと思われましたが、友熊が旧外地勤務の高層官であった点から、外務省史料館および総理府内閣総理大臣官房人事課